

Yumeken

春

2018 Vol.687

◆特集○話題の焦点

岐阜大学SIP実装プロジェクトと
インフラミュージアム

◆夢インタビュー

ツリーハウスから始まる繋がり
の輪で地域に元気を!

◆行ってみよう

フォレストアドベンチャー・栗東

◆おじゃまします

山基建設株式会社



岐阜大学 S I P 実装プロジェクトと インフラミュージアム

近年、老朽化が進む橋やトンネルなどの社会基盤施設(インフラ)を、どのように維持管理していくかが大きな課題となっています。岐阜大学工学部では、社会基盤工学科で学生の教育を行うほか、10年前から社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座を開講して、維持管理技術者の育成を目指すなど、その先駆的な取り組みが全国から注目を集めてきました。広報委員のメンバーが岐阜大学を訪問して、インフラマネジメント技術研究センターの沢田和秀センター長と六郷恵哲特任教授に、さまざまな取り組みについてお話をうかがいました。



**スタートは産官学みんで
知恵や技術を持ち寄る場づくりから**

各地でインフラの老朽化が進み、平成24年に起こった「笹子トンネル」の崩落事故のような重大な事故のリスクや、維持修繕費の増加が懸念されることから、インフラの維持管理と更新、メンテナンス技術の開発と技術者の育成を望む声が高まっています。

岐阜大学ではこのような社会のニーズに応えるため、平成20年に「社会資本アセットマネジメント技術研究センター」を設立、平成26年4月には「岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター(CIAM)」と改組し、「ひとくくろ」「くまのくろ」「こつくり」を3つの柱に、インフラ整備や維持管理に関するマネジメント技術の教育研究に取り組んできました。

取り組みのきっかけとなったのは、岐阜県内の建設会社と岐阜大学工学部社会基盤工学科、岐阜県建設研究センターが連携した研究所として、平成14年に設立した「岐阜社会基盤研究所」でした。

さまざまな課題を解決するために、産官学みんでノウハウや技術を持ち寄って、新技術や応用技術の研究開発に取り組み、地域特性に応じた具体的な技術課題や行



社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座受講者のみなさん

**官民が共に学び、
活発な技術交流の担い手に**

そんな中で社会人土木技術者の技術を向上させるために始まったのが、社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座で、平成20年からこれまでに42名がMEとして認定されています。

講座は年に2回実施されていて、4週間で「インフラマネジメント」「橋梁の設計・トンネル」「橋梁の維持管理」「地盤と斜面」「土構造物・水道・河川構造物」の5科目、90分×80「マ」の講座を集中的に受講するというもの。座学から設計実習などの演習、点検・施工・維持管理実習まで幅広く学び、全講座を修了すると「履修証明書」が授与され、ME認定試験に合格すると岐阜大学よりMEに認定されます。

この資格は岐阜県建設工事総合評価落札方式の加点対象となるほか、県では「MEの技術力を活用した効率的な維持管理」として、点検・修繕包括業務が行われています。また、平成28年度より国土交通省の技術資格に、橋梁(鋼橋)の点検と診断、橋梁(コンクリート橋)の点検と診断、トンネルの点検と診断の6つの区分で登録されました。

講座の修了者は同窓会組織「MEの会」を組織して、勉強会などを開いて盛んに技術交流を行っています。役所と民間企業の技術者が分け隔てなく共に学び、発注者・受注者、



開放的なデッキのあるメイン棟

幻想的な夜間のたたずまいも楽しみの一つ

湖国 街かど ウォッチング

新しい施設や街の話題をレポートするコーナーです。

GLAMP ELEMENT (米原市)

「グリーンパーク山東」の敷地内に昨年6月にオープンした、県内最大級のグランピング施設「GLAMP ELEMENT」。グラマンズ(豪華な)と「キャンプ」を掛け合わせた「グランピング」は、自然に囲まれたロケーションの中で、ホテルのような行き届いたサービスを受けながら、アウトドアライフを楽しむ新しいキャンピングスタイルです。快適なテントや充実した設備、おしゃれなインテリアなど、アウトドアで贅沢な非日常感を楽しめることで、最近人気が高まっています。目の前に雄大な伊吹山を望むロケーションを活かし、「火・風・水・土」の4元素をコンセプトに、バーを併設したラウンジ「アストラル(メイン棟)」や、天窓から星を眺めることのできる丸い球体型の「フロント」「ホワイトドーム」、別荘感覚で泊まれるカヌー付きの「キャンピング」などが配置されています。

料理はアウトドア料理研究家監修への



池のまわりにテントやキャンピングが配置されている



ユニークな形のロータステント

別荘感覚のウッドキャンピング

天窓のあるホワイトドーム

楽しむことができます。食事と一緒にいただく飲み物のほか、併設のバーの飲み物も宿泊料に含まれるオールインクルーシブ方式で、バターゴルフやカヌーなどのアウトドアアクティビティのほか、施設内のアスレチックなどファミリーで楽しめるスポットも盛りだくさん。自然の美しさとアウトドアの開放感、贅沢な大人の時間が楽しめるスポットです。

今シーズンの営業は、ヴィラやテントを増設して4月28日からスタートする予定です。

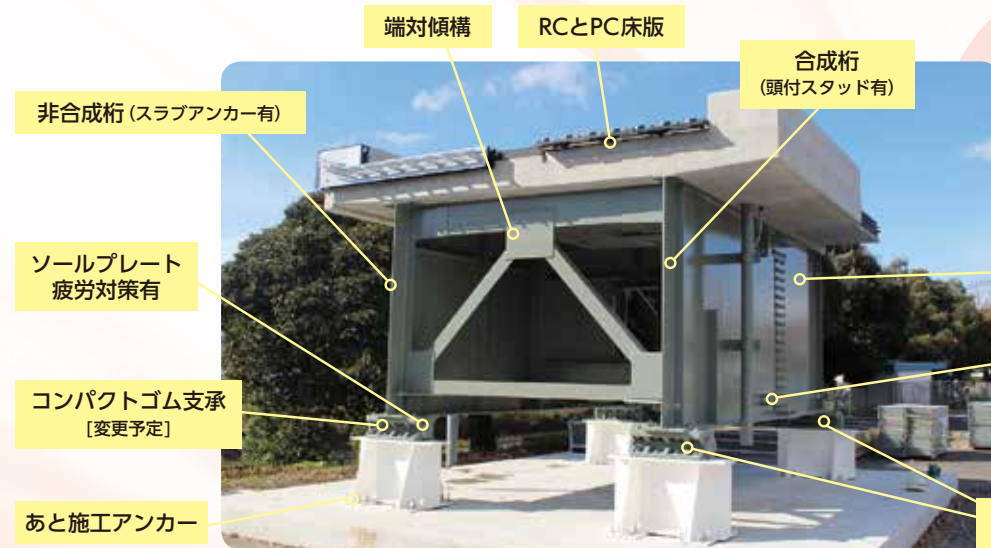
- 住所/滋賀県米原市池下60番地1
- 休日/無休
- TEL/0749-55-3755
- 公式サイト/http://www.glamp-element.jp/



野外で楽しむおしゃれなアウトドア料理

CONTENTS

湖国街かどウォッチング……………	2
GLAMP ELEMENT……………	2
特集・話題の焦点……………	3
岐阜大学 S I P 実装プロジェクトとインフラミュージアム……………	3
行ってみよう……………	6
フォレスト……………	6
アドベンチャー・栗東……………	6
おしゃまします……………	8
山甚建設株式会社……………	8
絵画コンクール入賞作品……………	10
夢イంతビュ……………	13
ツリーハウスから始まる繋がり輪の地域に元気を！学生団体Crown……………	14
会員企業活動レポート……………	14
湖国の除雪隊が行く！……………	14
夢けんひろは……………	16
「仕事の達人・遊びの達人」……………	18
1日1食法で減量に成功 毎日のストレッチで腰痛予防も藤田壮一郎さん……………	18
クイズ……………	19
近江つまいもの紀行……………	19
編集後記……………	19
表紙写真……………	19
「みらいのしるべ」松尾 雅秀……………	19
「未来の恐竜型工事」中村 隆誠……………	19
「かんぱねベルカ」大橋 航……………	19
「新しい図書館」建てるはしな野田 大志……………	19
「びわ湖の未来のロケット」藤田 風真……………	19
「たけな工事」ひなた……………	19
「夜もかほる工事」藤田 湧斗……………	19
「アトリス」建設 藤田 由 咲……………	19
「自由で仕事している職人」金井 千華……………	19
「向の変化」過去から未来へ 鈴木 有里佳……………	19
「未来の首長の橋」栗 幸晴……………	19

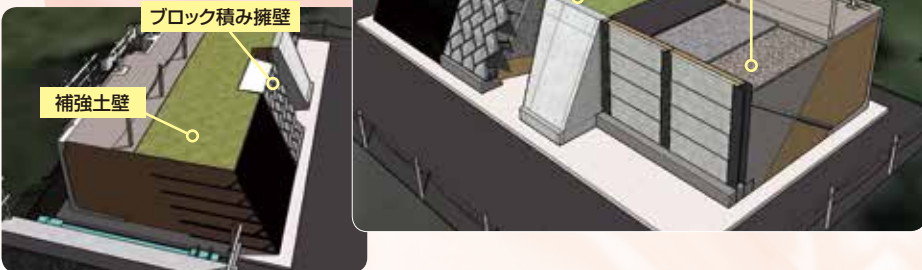


■鋼橋モデル
 損傷の発生しやすい鉄桁端部をモデル化した構造で、鋼橋で採用される各種の構造について学び、1970~2000年の構造・施工法の違いを理解できる。

端対傾構
 RCとPC床版
 合成桁 (頭付スタッド有)
 非合成桁 (スラブアンカー有)
 ソールプレート 疲労対策有
 コンパクトゴム支承 [変更予定]
 あと施工アンカー
 天竜峡大橋の 塗装仕様
 足場用吊金具仕様
 金華橋で使用されていた鋼製支承

■盛土モデル

再現された補強土の補強部分や軽量盛土の構造、ブロック積み等の背面を見ることができ、土構造物のイメージを理解できる。



重力式擁壁
 軽量盛土
 ブロック積み擁壁
 補強土壁

インフラミュージアム

維持管理技術者の学習や点検技術の検証のほか、社員研修や新人研修などにもぜひ活用したい施設です。
 〈インフラミュージアム見学申し込み問い合わせ〉
 ●岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター (事務局:工学部E棟3階E316室)
 ●Tel&Fax:058-293-2419
 ●E-mail:ciam-secretary@gifu-u.ac.jp

維持管理技術者の学習や点検技術の検証のほか、社員研修や新人研修などにもぜひ活用したい施設です。
 〈インフラミュージアム見学申し込み問い合わせ〉
 ●岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター (事務局:工学部E棟3階E316室)
 ●Tel&Fax:058-293-2419
 ●E-mail:ciam-secretary@gifu-u.ac.jp



橋梁点検カメラシステムによる支承周りの近接点検



近接撮影ができるドローンによる橋梁の点検



ロボット技術を取り入れた橋梁点検車の性能確認見学会



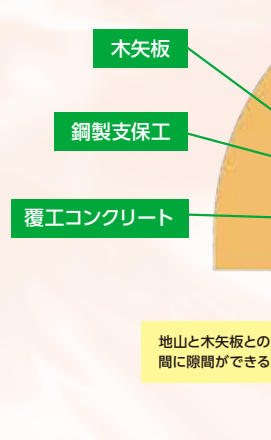
点検ロボットによる狭小なブラケット部の点検

「維持管理人材の育成が、さまざまな異なる立場の人にとって、例えば『安心快適』『長寿命』『生産性向上』『やりがい』といった魅力的な目標となって、だれもが参加したくなり、応援したくなる活動にしていきたいことが大切」という六郷特任教授のことばが印象に残りました。
 同大学を要とした岐阜県の建設業界の動きに、今後も注目していきたいと思えます。

技術者が使いたくなる 維持管理技術の開発を目指して

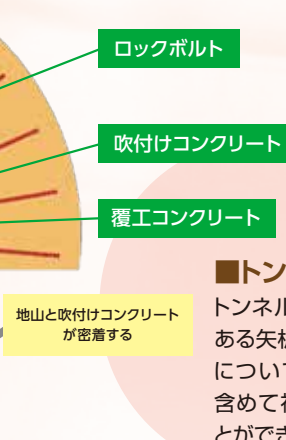
内閣府主導の「戦略的イノベーション創造プログラム(S-IP)」は、科学技術イノベーションを実現するために省庁の枠や旧来の分野を超えて創設した国家プロジェクトです。その中の一「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」の分野で、維持管理技術の研究開発が活発に行われていたことから、追加公募に応募した「岐阜大学S-I-Pインフラ地域実装プロジェクト」が採択されました。岐阜大学が目指すのは技術者が使いたくなるような維持管理技術で、S-I-P技術が普及するように、説明会や公開フィールド試験で技術の特徴を紹介するだけでなく、参加者からのニーズやアイデアを技術開発者に伝えることに重点を置き、発注者と受注者、技術開発者との間で活発な意見交換が行えるよう取り組みを進めています。

矢板工法



木矢板
 鋼製支保工
 覆工コンクリート
 地山と木矢板との間に隙間ができる

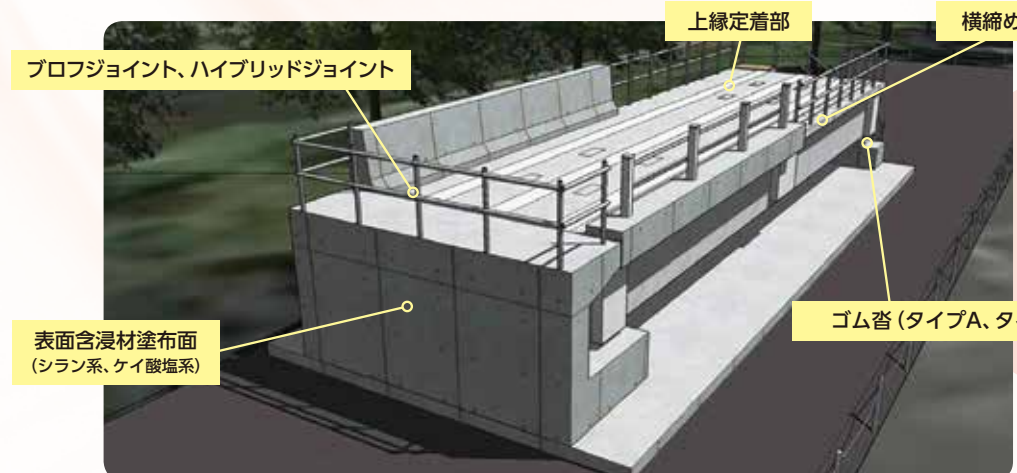
NATM工法



ロックボルト
 吹付けコンクリート
 覆工コンクリート
 地山と吹付けコンクリートが密着する

■トンネル断面モデル

トンネルの基本的な構造である矢板工法とNATM工法について学び、施工順序も含めて視覚的に把握することができます。



上縁定着部
 横締めPC鋼材
 プロフジョイント、ハイブリッドジョイント
 表面含浸材塗布面 (シラン系、ケイ酸塩系)
 ゴム沓 (タイプA、タイプB)

■コンクリート橋モデル

プレストレストコンクリートの基本的な構造や、特に重要な定着部等の構造について学ぶことができる。

見て、触れて、学べる インフラミュージアム
 平成29年には、点検技術の検証や維持管理技術者を育成するための臨床教育用教材として活用するため、トンネルや盛土などの実大の構造物モデルからなる、「インフラミュージアム」が大学の構内に設置されました。例えばトンネル断面モデルでは、昭和30年頃から50年代にかけて用いられていた「矢板工法」と、50年代に導入された「NATM工法」の2つの工法について、施工順序も含めて、その違いや特徴を見て学べるようになっています。
 適切な維持管理を行っていくためには、建設過程や技術の変遷を学ぶことが不可欠になります。見学者からも「どのような技術の進歩によってNATM工法が可能になったのか、土木史についても学ぶことができた」といった反響が寄せられています。
 トンネルモデルのほかに、コンクリート橋モデル、鋼橋モデルがあり、さらに盛土モデル



講座では90分×80コマの講座を集中的に受講する。

点検や施工実習など実践的な講義が盛り込まれている。



職種などの壁のない技術を核としたネットワークを形成して、技術の研鑽に努めていけるところに意義があると云えます。そして今年度から始まった大学院プログラムの「インフラマネジメントリーダー養成プログラム」は、建設で働いた経験のない大学院生とMEの社会人学生と一緒に学ぶプログラムで、協働して同じ課題に取り組むことで、学生は実践的な知識を身に付けることができます。社会人学生と交流することで、学生にとって建設業の仕事を理解する機会になると期待されています。

社会基盤メンテナンス エキスパート(ME)養成講座 募集要項

平成30年度後期講座(第20期)
 ●受講申請期間 平成30年6月4日(月)~6月29日(金)
 ●募集人員 30人
 ●受講期間 平成30年8月20日~9月14日
 ●受講料 25万円
 ※厚生労働省の「専門実践教育訓練給付金」の支給対象として認定されています。
 受講資格、受講申請手続きなどの詳細は、以下のセンターホームページで確認してください。
<https://www1.gifu-u.ac.jp/~ciam/>

ルも現在建設中です。
 学部や大学院、ME養成講座などの教育に活用されるだけでなく、他の教育機関や団体の研修、構造物の非破壊調査や点検技術の評価などにも広く利用されることが期待されています。

栗東市

フォレストアドベンチャー 栗東



自然との共生をテーマに
森を生かした
アウトドアパーク

だれでも安全に楽しめる専用の安全装置を採用

フランスで生まれた「フォレストアドベンチャー」は、森林を利用した自然共生型のアウトドアパーク。平成18年に日本第一号の「フォレストアドベンチャー・フジ」が山梨県の富士山麓にオープンして以来、日本全国25カ所以上に施設が開設されています。
平成29年7月には、滋賀県初となる「フォレストアドベンチャー・栗東」が金勝の森にオープンしました。

フォレストアドベンチャーではヨーロッパの安全基準に基づいた施設の設計、施工、運営を行い、各施設のスタッフが日々安全点検を行って、緊急時の対処法などを検討し、レスキュートレーニングなどを行って、安心して利用できるようにしています。
利用者はハーネスを着用し、専用の安全装置「ビレイシステム」で自分で安全確保を行うため、必ず安全講習を受けて安全器具の操作方法を教わってからコースに出ることになっています。コースに張りめぐらされたケーブルに一旦安全装置をセットすると、最後まではずさずに移動できるので落下の危険を回避できます。
そのため、難易度の高いアドベンチャーコースでも、小学4年生以上もしくは身長140cm以上なら年齢に関わらず、また特別なスキルがなくても安全にだれでも楽しめるのが魅力です。

「自分の安全は自分で守る」「刻々と変化する自然に対応する」「自分で判断し選択する」というコンセプトを生かして、社員研修や修学旅行、自然体験などのプログラムにも対応しています。

森をそのまま利用して、自然の立ち木の上に設けられた足場（プラットフォーム）から足場へと、さまざまなアクティビティを体験しながら空を進み、最後はジップスライドで一気に地上に滑り降りる。「フォレストアドベンチャー」は森の豊かな自然の中で、空中散歩や空中遊泳が楽しめる施設です。
どの施設も、環境へのダメージができるだけ少なくなるよう配慮しながら、森の自然や地形を生かしたコース設計と施工を行っているのが特徴です。コースを設置するために森の間伐や下草刈りをするので、森が元気に生まれかわることから、遊休森林の有効利用として期待されています。



体験前に必ず、専用の安全装置「ビレイシステム」の扱い方についてレクチャーを受けることになっている。



最も高い足場は樹上約15メートル
滝や源流もある自然豊かな施設

「フォレストアドベンチャー・栗東」は、滋賀県産の木材を主に使って作られた5つのサイト、46のアクティビティからなるアドベンチャーコース。谷を越えて滑空するスリル満点のジップスライドのほか、フォレストアドベンチャー初の「デュアルターザンスイング」では、高所から飛び降りて「ターザンスイング」で空中のネットに飛び移るアクティビティを2人同時に体験できます。難易度の高いアクティビティは迂回できるようなっているのにシニア世代も安心。
施設の中には源流があったり、自然の滝があったりと非常に自然豊か。道の駅やパンガロー村などもすぐ近くにあるので、家族やグループで1日ゆっくり自然と親しむ休日か過ごせる注目のスポットです。



デュアルターザンスイング
高所から飛び降りて空中のネットに飛び移るターザンスイングを2人同時に体験できるようになっている。

5つのコースをすべてまわると所要時間は約120分。
難しいアクティビティは迂回できるようになっている。



ジップスライド
各コースの最後はジップスライドで一気に滑り降りることができる。



利用条件

アドベンチャーコース

- ・小学4年生以上もしくは身長140cm以上、体重130kgまで。
- ・中学生以下は18才以上の保護者もしくは同等の資格を持つ方と一緒に参加して頂きます。
- ・保護者の方1名につきお子様3名まで同伴可能です。
- ・高校生のご利用の場合は、保護者の同伴は必要ありませんが、誓約書のご記入と地上からの付き添いをお願い致します。
- ・サンダル、クロックス等での利用が出来ないためスニーカーまたはランニングシューズ持参をお願いします。

利用料金 (ルール改正2018.3/1~)

- 大人・子ども 3,600円 (8名以上の団体は3,300円)
- ガイドパック (プライベートガイド付き) 5,200円 (コース1周)

※要事前予約

- 栗東市観音寺字平谷459 ●090-5794-0420
- 新名神信楽ICから12分、「道の駅こんせ」より1分
- ritto@foret-aventure.jp ●http://fa-ritto.foret-aventure.jp/

※営業日は上記サイトよりご確認ください。

第5回「夢けんプラザ絵画コンクール」の審査に今年も参加させていただきました。私自身、幼い頃から働く車が大好きで、このコンクールを毎年楽しみにしています。早いもので、初めて審査に関わってから5年目を迎え、応募作品や参加していただく学校も広がり、このユニークな活動が定着してきたことに感動しています。

今年は、「滋賀の建設物」を新たなテーマに加えたことで、郷土の歴史的な建設物やランドマークとしての巨大な構造物、またそれと対峙する雄大な自然が描かれた作品に出会うことができました。審査を通じて、子どもたちが描く風景が未来へと繋がっていく感覚と、建設業が風景に関わるスケールの大きな仕事であることを実感させてくれました。絵を描いたり、ものを作ったり、そんな造形を楽しむ体験を通じて、このコンクールも未来のクリエイターやエンジニアを育成する活動として、更に発展していくことを願っています。

第5回

『夢けんプラザ絵画コンクール』

次世代を担う子どもたちに向けて、建設業の魅力を発信する目的でスタートした滋賀県建設業協会の「夢けんプラザ絵画コンクール」。安全で快適な暮らしを送るためのインフラ整備や、まちの豊かな環境の整備など、多くの役割を建設業が担っていることや、その役割の大かさに関心を持ってもらい、子どもたちの豊かな感性や観察力、創造力を育むことを目的に開催される、県内の小中学生を対象とした絵画コンクールです。

- テーマ
- ①「工事ではたらく機械と人」日常にある建設機械やあったらいいなと思う機械、未来の工事のようす工事現場で働く人のようす
 - ②「道路やビルなどの工事のようす」住んでいるまちの道路、橋、ダムやビルなどの工事のようす
 - ③「滋賀の建設物」住んでいるまちの道路、橋、ダムやビルなど



最優秀賞

第2部
小学校高学年
の児童

「災害現場の
未来のロボット重機」
北澤 風唄 (6年生)

優秀賞

評

切る、つかむ、掘る、といった複雑な機能を丁寧に描き分けたり、遠隔操作による作業の様子を描き込むなど、現場の状況が良く伝わる作品です。また、未来を想定していますが、とても現実的で社会的なテーマにも取り組んでおり、多くの要素やメッセージを一枚の画面にバランス良く構成した秀作です。



最優秀賞

第1部
小学校低学年
の児童

「みらいのしよべるかー」
松尾 祥秀 (1年生)

優秀賞

評
お魚のような未来の機械が協力して何かをつくる様子は、まるで家族のようです。それぞれに役割があるようで、「これはね、土を削って...」「あれはね、土を集めて...」など、作者の声がかんたてくるようです。絵を通して、作者の頭の中のイメージが描きながら広がっていく様子がとても素敵な作品です。



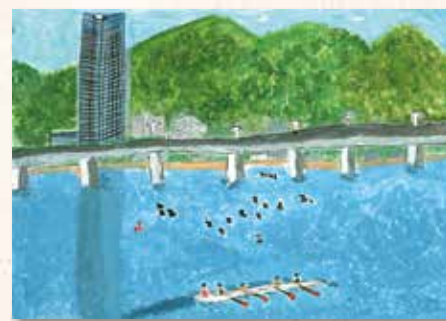
「夜もがんばる工事の車」
丸井 湧斗 (4年生)

評
夜の星空と建設機械の黄、カラーコーンの赤、背景の山の緑、遠くに見える町並みの青、夜の風景を鮮やかな色彩で表現した美しい作品です。



「ただ今工事中」
丸井 ひなた (6年生)

評
弧を描くように表現された夕日を中心に、ホイールローダーとタンクローリーを象徴的に対峙させる構図が、工事現場をドラマチックに演出しています。



「びわ湖から見る近み大橋とプリンスホテル」
望月 琉乃介 (5年生)

評
ダイナミックな構図が魅力的で、建築や橋などの巨大な構造物と、山や湖といった雄大な自然を対比させ、影がそれを繋ぐ意欲作です。



「がんばれシヨベルカー」
大橋 航 (3年生)

新しい図書館早く建てほしいな
築田 ころこ (2年生)

評
これは杭打ち作業をしている様子でしょうか。地面と工事の様子や、背景のバランスが絶妙で、良く観察して描いた力作です。



「未来の恐竜型工事ロボット」
中村 隆誠 (1年生)

評
ショベルカーやクレーン車のダイナミックなスケール感は、どこか恐竜のイメージと繋がります。両者が協力して働く様子が魅力的な作品です。



「働くショベルカー」
田中 悠貴 (6年生)



「砂を運ぶオフロードダンプトラック」
山本 慎也 (5年生)



「ショベルカーと働く人たち」
塩崎 琴美 (5年生)

入選



「瀬田の唐橋」
吉本 晃明 (6年生)



「瀬田のから橋と漁船」
滝川 奏星 (4年生)



「水しぶきのオランダ堰堤」
濱山 伊吹 (5年生)



「はたらく
ショベルカー」
岩見 胡南 (1年生)



「回てんロボット
ショベル」
花房 ゆうき (2年生)



「夏の琵琶湖大橋」
為則 聡介 (1年生)

入選



「土をおせ！
ブルドーザー」
久保 秀明 (3年生)



「ダムの工事」
三宅 貴広 (3年生)



「油圧ショベル」
大石 悠斗 (2年生)

最優秀賞

「ヴォーリズの建設物」
上田 咲月 (3年生)



評 美しいヴォーリズ建築をレイヤーの中心に設定して、手前や奥に複雑に入り組んだ部屋や樹木の関係を丹念に描いています。このような階層構造を認識しながら空間を描く行為はとても集中力を要します。また、構造物の垂直や水平の直線と樹木の有機的な曲線の対比が美しく、見事な作品です。

優秀賞



「宇宙で工事している機械と人」
金井 千華 (3年生)

評 宇宙空間で働く人や機械のサイズを微妙に調節することで、広がりのある空間が表現されています。観念的な作品です。

入選



「宇宙にエレベーターを建てよう!!」
福島 ひかり (3年生)



「時の変化〜過去から未来へ〜」
鈴木 有里佳 (3年生)

評 新しい家が建つと、以前は何があったのかが以外と思い出せないことがあります。そんな見慣れた風景の移ろいを考えさせてくれる観念的な作品です。



「未来の昔風の橋」
平岩 実千瑠 (1年生)

評 竜宮城に出てくるような昔話の世界を、未来の風景として表現しています。スパッタリングによる絵の具の効果が美しく、幻想的な雰囲気を演出しています。



「夜のもみじ街道」
大野 紗椰 (2年生)



「工事現場で大活躍、パワフルユンボ」
茶木 菜緒 (3年生)



「ビルの工事のようす」
土田 ちこ (1年生)



「夜をてらすカラフル未来トラック」
寺田 芳章 (1年生)

夢 Interview

ツリーハウスから始まる 繋がりの輪で地域に元気を!

立命館大学建築都市デザイン学科の学生で構成される学生団体「Crown」は、ツリーハウスの設計施工、さらにイベントの企画を通じて地域を活性化する活動を展開しています。
昨年は彦根市の荒神山自然の家に4基目のツリーハウスを建設、完成記念イベントや各地のツリーハウスを結んでのイベントを実施しました。
代表を務める萩 智隆さんにお話をうかがいました。



● **何名ぐらいのメンバーが活動されているのですか。**
現在メンバーは14名で、設計部、営業部、イベントの企画や運営を行う渉外企画部、広報部の4つの部門に分けて活動しています。

● **どのようにして設計されるのですか。**
まず、設計部がツリーハウスの設計案を出して、「コンペ形式でCrownの中で絞り込んでから、地元の方々を対象にした設計講習会を行う。地域の方々のご意見をうかがい、子どもたちの希望も反映しながら決めていきます。

● **そして全員で施工されるんですね。**
9月に行う2週間の夏合宿で完成させます。最初に講習会を開いて、先輩から1回生に工具の使い方を教えることから始めます。寝起きを共にして、一つのものをつくり上げることを通して、ものづくりの苦労や喜び、チームワークの大切さを学ぶよい機会になります。

● **一連の活動にはどのくらいのお金が使われるのですか。**
ツリーハウスからはじまる繋がりの輪を活動理念として、ものづくりを通して子どもから大人までたくさんの人々に夢を与えること、ツリーハウスを各地に造って新たに「コミュニティの輪を形成する」という活動を、全国に広げていくことを目指しています。

● **造るだけが目的ではないんですね。**
耐用年数を7年と決めて、7年後に解体する

るところまで地域と関わりを持って、日々のメンテナンスは地域にお願いし、定期的な点検と改修はCrownが行うことになっています。

● **萩さんご自身はどうしてこの団体に入らうと思ったのですか。**
1回生の時にプロモーションビデオを見て、おもしろそうだったので入会しました。山口県の私の故郷は、小学校が廃校になるくらい過疎化が深刻な問題となっています。代表に手を挙げたのは、そういう地域を見てきて、楽しく活動しながら地方を少しでも元気にしていこうというCrownの趣旨に賛同したからです。

● **これまでの活動を通じて感じられることは、**
地域の活性化が私たちの活動の目的ですが、学生の手で目に見える結果を出すのはなかなか難しいと思います。ただ、大事なことはきっかけを作ること、若い人がいなくなつて高齢者がばかりになってしまつと、動き出すまでがなかなか難しいのですが、ツリーハウスをつくるのが動き出すきっかけになければと考えています。

● **今後の活動予定について紹介ください。**
今年には長浜市の「大見いこの広場」に建設する予定です。昨年、建ててほしいというお話をいただいて、今準備を進めているところです。

● **最後に萩さんの将来の夢について聞かせていただけますか。**



学生団体 Crown
平成26年、建築科の4人の学生が「TMP」という名称で活動を開始。兵庫県丹波市のキャンプ場に、地元の工務店の協力を得て第1基目のツリーハウスを建設、以後名称を「学生団体Crown」に変更、現在のメンバーは14名。名称にはジェロのように子どもたちに夢を与え、大人には忘れていた何かを想起させるような存在になりたいという想いが込められている。

活動を通じて得たことや大学で学んだことを、少しでも自分を育ててくれた地元に戻元したい、建築、ものづくりの目線から地元を元気にできればと思っています。



すべての作業を細かく記録

オペレーターは雪寒巡回日誌に、岐阜県境から竜王町鏡まで30か所あるチェックポイントの通過時刻、天候、路面状態、交通状況、路面温度などを記録します。

また、除雪作業は公共工事であるため、作業内容のほか、積み込んだ薬剤の量や散布量、移動距離、稼働時間などを整理・集計して報告書を作成し、発注者に提出しなければなりません。

5:30

作業の記録・報告書作成のため、オペレーターの八幡さんも現場に向かう。スマートフォンのアプリを使って、グレーダー、除雪トラック、散布車のGPS情報をリアルタイムで確認することができる。



5:45

米原BPの除雪状況を確認。西円寺方向から低速走行でやって来る車両を待つ。

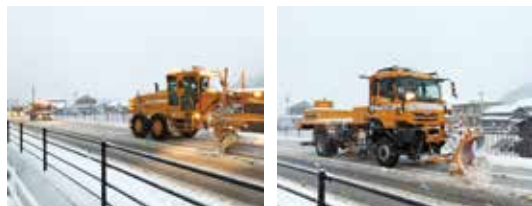


6:45

米原BP高架橋の下にある融雪装置用の薬液タンクの容量を点検。空が白んでくる。

7:00

長久寺から西円寺を走る除雪車両の仕の確認へ。GPS情報で除雪車両の位置を確認し、先回りできる位置へ移動。



8:00

彦根維持出張所へ戻る道中も八幡さんは除雪の状況をチェック。時には道路にたれ下がってくる竹の除去を指示することも。通勤時間帯を融雪剤散布だけのため、彦根維持出張所で待機している隊員に散布車の準備を指示。



8:30

車両の点検、交替要員への引き継ぎなどを行って業務を終了。

お疲れさまでした!

26日(金)

4:30

南向きの散布車が帰還。米原市を中心にこの後2時間くらい雪が多く降るといふ気象情報を受け、南向きの融雪剤散布を中止して、5時から除雪グレーダー、除雪トラック、散布車を総動員して除雪作業に向かうことに。



2:30

北向き、南向きの散布車が4回目の散布に出発。これまで散布車に乗っていた隊員は仮眠を取り、翌日の現場での仕事に備えるとのこと。



密着レポート

湖国の除雪隊が行く!

記録的な積雪に見舞われた北陸で国道の車が立ち往生するなど、今年の冬は各地に大雪の被害もたらされました。国や自治体では、積雪の状況によって主要な道路の除雪作業を行っています。除雪のための特殊な車両を運転するには、大型特殊免許や建設機械施工技士などの資格が必要なことから、除雪の担い手となるのは日頃から重機を扱っている地元の建設業者です。今シーズン最大の寒波が接近する1月25日、国土交通省滋賀国道事務所彦根維持出張所を訪ねて、除雪活動を密着取材しました。

彦根維持出張所では、国道8号線の竜王町鏡から米原市西円寺と8号線バイパス、および国道21号線の米原市西円寺から岐阜県境までの除雪作業を行っています。除雪業務を請け負っているのは岐建・田中シビルテック地域維持型建設共同企業体で、取材では実際の作業を請け負う奥儀建設株式会社の八幡さんに案内役をお願いしました。

24時間体制で雪に備える

詰め所での待機は、国交省から送られてくる雪氷予報情報に基づいて、対応や班の編成を行って決定されます。1日に何回出動が必要なのかも見えてくるので、交代要員を準備して24時間体制を整えます。

今回の待機は23日の夜から始まり、取材にうかがった25日は10名が待機していましたが、全体でのべ50名が作業にあたりました。

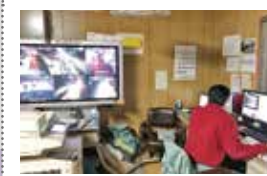
19:00

融雪剤の散布車が出動。2人一組で散布車に乗り込み、北の県境までの約60kmと南の竜王町鏡までの約60kmの南北に分かれて2台が出発。



25日(木)

18:30



モニターで滋賀県全域の降雪状況をチェック。高島、西浅井の一部で降雪があるものの、全体的に道路に雪はないとのこと。融雪剤の散布計画について打ち合わせ。

19:15

柏原付近で雪が降り始めたため、柏原梓河内線の融雪装置(水を出して路面の雪を溶かす)を起動。



20:30

融雪剤の散布車が柏原基地に、南の散布車が竜王町鏡に到達。ここから折り返して戻ってくる。



21:30



戻って来た北向きの散布車に3トン分の融雪剤を積み込み、運転者を交代して再度出発。

22:00



戻って来た南向きの散布車には、融雪剤の大きな塊が詰まっていたため、これを取り除き、融雪剤を積んで出発。



手の空いた作業員が手作業で歩道を除雪することも。

高齢化が進む熟練技能者

除雪グレーダーに付いている雪を払う刃は、路面に触れると一気に減ってしまいます。しかし、路面から遠ざけると雪が残ってしまいます。ここに熟練のテクニックが必要なのですが、グレーダーの刃を走行しながら微調整できる運転技能者がいなくなってきています。

最近では、大型免許を持っている若い人が少なく、不規則な作業環境も相まって、なかなか若い方が除雪対応に来てくれないそうです。今は熟練技能者の方々が頑張っていますが、世代交代しないと近々に除雪できる人がいないという状況になっていきます。

昔に比べて労働条件も徐々に改善されているとのことですが、さらなる改善に取り組むだけでなく、改善されていることのPRも必要です。

除雪業務でやりがいを感じる

- みんなで和気あいあいとした雰囲気なのが一番楽しい。
- 業務形態上、長い時間を一緒に過ごすので自然と良い人間関係を構築できる。
- それぞれがお互いに気を使いながら、時には年齢を超えて冗談を言い合う雰囲気。
- 社会的意義を強く感じられる。



除雪業務の課題

- 勤務時間が長い(人がいないから続ける作業になる・昼間に別の作業がある)。
- 高速が止まると確実に国道が詰まるので、除雪作業もできなくなる。
- 除雪車の数に限りがあるので、精いっぱい動いても除雪しきれずもどかしい。
- 待避所を少し開けてあげたいという気持ちがあっても、本線が優先になるので心苦しい。
- 住民の皆さんからの苦情はないが、警察からの催促は多い。

除雪隊のみなさん! 今年も地域のための除雪作業ありがとうございました!

「平成29年度 滋賀県メンテナンス技術者養成講座」が終了

滋賀県建設業協会が中心となって今年度からスタートした「滋賀県メンテナンス技術者養成講座」(本誌昨年秋号でも掲載)が、予定どおり3回開催され、24名の受講者全員が修了しました。

今年度は7月、8月、そして2月に開催され、全員が、足掛け3日間の講習会を舞鶴工業高等専門学校および滋賀県会場(実橋での講習含む)で受講し、橋梁工学や、コンクリート・鋼橋構造物の損傷と対策、現場実習ガイダンス、詳細調査手法等について学びました。来年度もこの講座は継続して開催します。

この講習会受講生が、滋賀県の橋を守り、県民に一層の安心と安全を提供できる技術者として活躍してくれることを期待しています。



第5回婚活パーティーを開催

未婚化、晩婚化対策として、滋賀県建設業協会では協会員に出会いの場を提供する社会貢献事業として、婚活パーティーを開催しています。

平成29年11月11日(土)にフェリエ南草津において開催された、第5回目となる婚活パーティー、男性22名女性19名が参加され、エンディングでは7組のカップルが誕生しました。

また、一昨年の第4回婚活パーティーで誕生したカップルが、この春、めでたく挙式されることになりました。

会場の準備のほか、現場で働く男性参加者の映像制作や、出会いの場を盛り上げるためのプログラムづくりなど、たいへんなことも多い事業ですが、カップルが誕生し、さらにゴールインされることかなよりの励みになります。

幸せいっぱいのNさんにお話をうかがいました。

青年部の先輩から声をかけていただいて婚活パーティーに参加しましたが、正直なところその時はまったく期待していませんでした。

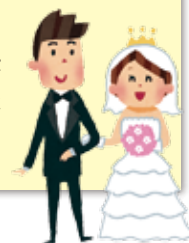
ところが、たまたま正面に座っていた女性と音楽の話などで楽しく盛り上がり、すっかり意気投合してパーティーが終わってから食事に行きました。今から思うと、すでにその時、お互いに運命的な何かを感じていたと思います。

プロポーズは昨年4月、二人の交際を知っているまわりの人たちからは、いつプロポーズするかと注目されていたようです。

彼女はしっかりと自立した大人の女性で、ケンカしても翌日には普通に接してくれるし、忙しい時は休日も働いたり、帰りが遅くなったりするという自分の仕事に理解があるのもありがたいです。

30歳を過ぎているので両親もとても喜んでくれました。彼女と出会っていなかったら婚期が遅れて心配をかけていたかもしれません。

まず出会わないことには始まらないし、出会いのチャンスはどこにあるかわかりません。だから、婚活パーティーにはぜひ行ってみたいと思います。



Nさん、メッセージありがとうございました!

お二人が末永くお幸せに、そして力を合わせてあたたかいご家庭を築かれますことを願っています。

広報委員会の動き～『夢けんせつ春号』の取材など～

広報委員会では、昨年11月21日の「フォレストアドベンチャー・栗東」の体験取材を皮切りに、『夢けんせつ春号』の取材をスタートしました。

12月22日には、「おじゃまします」の取材で彦根の山基建設(株)様を訪れ、その後、会議室をお借りして第5回広報委員会を開催しました。

「特集 話題の焦点」では、早くからインフラメンテナンスの研究と技術者の養成に取り組んできた岐阜大学を訪問、沢田和秀インフラマネジメント技術研究センター長と、六郷恵哲特任教授にお話をうかがい、構内に開設されたインフラミュージアムを見学させていただきました。

また、3月14日には立命館大学草津キャンパスで「学生団体Clown」を取材しました。



滋賀県建設業協会の活動についてご紹介するコーナーです。協会広報委員会のフェイスブックもあわせてご覧ください。

夢けんひろば

『けんせつフェスタしが』を開催しました

滋賀県建設産業魅力アップ実行委員会主催で、建設産業の魅力を発信する『けんせつフェスタしが』が、平成29年12月16日(土)に大津港にて開催されました。

冷たい風の吹く中でしたが、たくさんのお客様にお越しいただき、盛大に開催されました。

出展ブースは、官公庁および建設産業団体連合会加盟団体を中心に36ブース。ご来場のお客様は約2,100名となり、大盛況で幕を閉じました。

たくさんのご来場、ありがとうございました



夢けんプラザ絵画コンクールの審査会と表彰式

10月4日、大津建設会館において第5回「夢けんプラザ絵画コンクール」の審査会が成安造形大学の協力のもと開催されました。今回は県内34の小中学校より266点の応募をいただき、感性や観察力が豊かで力強い作品が多い中、第1部、第2部、第3部より最優秀賞、優秀賞、入選の合計29点の入賞作品が決定しました。

そして、最優秀賞を受賞された学校に表彰状を授与するため、12月5日に永源寺中学校、12月7日に大宝東小学校、12月13日に小松小学校を本庄協会長が訪問、校長先生方の前で受賞された生徒さんへ表彰状と賞品を手渡しました。



前号の答え
インフラツーリズム

パズル&クイズ当選者

- 辻 葵さん
- 岡本 聖さん
- 北村 馨さん
- 上原三栄子さん
- 植田 幸美さん
- 澤田 務さん
- 平原 和美さん
- 近藤 ちひろさん
- 鍋島 道雄さん
- 丹治 徳彦さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り
平成30年6月20日必着
- あて先
〒520-0801
大津市におの浜一丁目1-18
(一社)滋賀県建設業協会 広報委員会

この道一筋の豆屋さんがつくる「煮豆」「昆布巻き」「煮豆のどら焼き」青木煮豆店(大津市)

昭和7年創業の青木煮豆店。戦前は八八車に煮豆を載せて大津市内を売り歩いてきたそうですが、現在もその伝統を守り、火曜、木曜、土曜日に移動販売車で市内をまわっています。

金時豆、とら豆、青豆、大豆、そら豆、黒豆、えび豆など定番の煮豆は、前日から水に浸し、豆によって炊く時間や火加減を調整しながら炊き上げています。ふっくらとやわらかくて、それぞれの豆の味わいが楽しめるのは、この道一筋の豆屋さんならではのものです。

また、日高昆布でしんを巻いた昆布巻きは、薪を使って昔ながらのおくどはん(かまど)でじっくり炊いたもので、とろけるように柔らかな昆布のうま味が広がります。着色料や保存料、甘味料を使っていないので安心、自家製の塩昆布やごまめ、ちりめん山椒なども販売しています。

もう一つの人気商品は、煮豆がたっぷり入ったどら焼きで、金時豆、とら豆、青豆、そら豆の4種。ほのかな塩気が絶妙で、ボリュームもあっておやつや軽食にピッタリです。

湖西線志賀駅のすぐ近く、琵琶湖畔にあるお店にはイートインスペースもあって、煮豆をトッピングしたかき氷やアイスクリームは夏場の人気メニューになっています。

ほかにも金時豆のおしるこ、豆のせトーストといった煮豆屋さんらしいオリジナルメニューや、ハンドドリップのコーヒー、ジュースなどもあって、レジャーで訪れた人や「ビワイチ」のサイクリストたちの憩いのスペースにもなっています。



- 大津市木戸105-7
- 077-592-0270
- 営業時間/9時~18時
- 不定休
- ※移動販売の場所や時間は以下のホームページでご確認ください。
<http://www.aokinimame.com>



金時豆のおしること煮豆をのせたかき氷

寒い冬が終わり、ようやく暖くなりました。編集後記を書いている3月中旬は三寒四温の真ただ中ですが、冊子が発行される頃にはびっくりするぐらい暖かくなっているのでしょうか。

今回は、除雪隊の活動を実際に泊まり込みで密着取材させていただきました。1日だけなので大変さは身に染みていませんが、思った以上に楽しそうに仕事されているのが印象的でした。確かに身体的には厳しい仕事ですが「地域のために、俺たちがやらねば誰がやる?」の精神で繋がっている仲間との共同作業ですから、やりがいの方が大きくなるのかもしれない。

思えば、我々建設業の仕事って、結局は「俺たちがやらねば誰がやる?」に集約されるんでしょうね。その延長線上にモノづくりの楽しさや達成感がある。社会の役に立つという充実感とモノづくりの達成感が味わえる仕事「建設業」の魅力、これからもお伝えできればと思います。

今回の夢けんせつで現広報委員会は解散になり、新たなメンバーによる活動が開始されます。我々がやり残した宿題を引き継ぎつつ、新たな切り口で建設業の現在や明るい未来を語るような広報活動を続けていってください。

取材にご協力いただいた皆様、広報活動をご支援くださった皆様、そして、広報委員の皆様、本当にありがとうございました!

After Word



仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

1日1食法で減量に成功 毎日のストレッチで腰痛予防も

株式会社藤田工業 藤田 壮一郎



激しいスポーツをしていた人が社会人になって何運動を失くすと、体重が急増して、生活習慣病や腰痛などの不具合が起こるといのはよくあることです。

私も学生時代はラグビーをしていましたが、仕事を始めると運動する機会もなくなり、付き合いで酒を飲むことも多くなって、体重がどんどん増えてしまいました。

仕事柄腰痛にも悩まされるようになり、「これは何とかしなくては」と思って、15年ほど前から週に1度ジムに通うようになりましたが、なかなか効果は現れませんでした。ほかに、飲み水を変えたり水を吸入したりと、体に良さそうなことをいろいろ試してきました。

健診で食後に血糖値が急上昇する。血糖値スパイクの傾向があることがわかり、食生活を改善しようと始めたのが、1日1食法です。原則として食事は夕食だけしかとりません。初めは会食などで一人だけ食事をしないと心配されたりして、まわりの人に周知するのに時間がかかりました。

食事の時は血糖値の上昇を予防するため、必ず野菜から食べ始めるよう



週に一度はジムに通って筋トレに動いている。

減らすことができました。さらに、1年ほど前から毎日ストレッチを行っています。きっかけは「かんたん開脚で超健康になる」という本の出会いでした。股関節を中心に呼吸と合わせてストレッチする「真向法」という運動法を紹介したもので、これを始めるようになってからずいぶん体が柔らかくなり、冬になると悩まされていた腰痛もピタッと起こらなくなりました。

妻からは「健康おたく」と笑われていますが、これからも元気で仕事ができるよう自己管理をしていきたいと思っています。



パズル クイズ

○の中に漢字を入れて四字熟語を完成させてください。
○をつないでできることばは、ヒント 特集「話題の焦点」

- ① 大○ 振舞
- ② 一 期 一 ○
- ③ 公 ○ 秘 書
- ④ 愛 ○ 精 神
- ⑤ ○ 行 規 則
- ⑥ ○ 幹 産 業

- ① 気前よくおごりついたり、物を与えたりすること。
- ② 生涯に一度しかないと考えてことに専念すること。
- ③ 給与を国費で負担する国会議員の秘書。
- ④ 勤めている会社を思いやり持ち。
- ⑤ 法令の効力を発生させる時に必要な細則。
- ⑥ 国の経済発展の基礎をなす重要な産業。